



韓国の国会前に座り込むゼネスト参加者。今年3回目となるゼネスト。解雇自由の労働法制改悪反対・権力の弾圧粉碎で立ち上がっている。

**韓国・民主労総が
社会変革のゼネスト！**

戦場のようないくつを ストライキで変えよう！

●僕らの日々が「戦場」だ！

私たち学生自治会は、今年一貫して戦争の問題を訴えてきた。誰もが反対しつつも戦争は、いつも「合法的に」「支持されている」ものとして進められており、今もそうしてシリアの空爆・戦争が続けられている。これはいったい何故なのだろうか？

シリアでは1000万以上の難民。2011年からの内戦で25万人以上が死亡。多くの人々の命運を左右する戦争の問題をも、考える余裕を奪われているのは何故だろうか？それだけではなく、移民を排斥するべきだという意見が全世界的に台頭しているという。これは何故だろうか！？

それは、私たち自身も他者のことを考える余裕もない「戦場」に置かれているからだ！ 欧州では若者の4人に1人が失業。日本でも非正規率5割、大卒内定率47.8%（中四国）、就活自殺は150人を超えるような「まともに生きていけない」状況。その中での競争。とりわけ広大は自殺の多い大学と噂される。戦争でなくても日々が「戦場」。

勝っても負けても地獄。非正規は「法律の名で」3年で使い捨て。正社員・公務員になったとして強労働・残業の日々。地獄だと分かっているけど、競争に勝ち残らなければ生き残るという絶望。

経済発展・技術革新がこう

大学生の地域別就職内定率	
北海道・東北	62.9% (1.9%減)
関東	75.8% (1.3%増)
中部	63.6% (2.5%増)
近畿	67.8% (5.3%減)
中国・四国	47.8% (9.1%減)
九州	53.5% (3.7%減)
※今年10月時点。カッコ内は前年同期比	

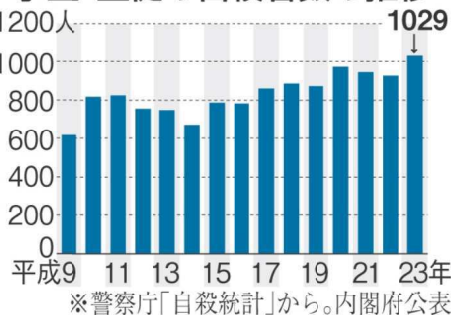
した状況を変えるのだと言われてきた。真面目に学び、働き、それがいずれは戦争と貧困を解決するのだと。しかし、現実はどうなのか？ 経済は回復基調だと言われ、技術の粋を集めたスマホが普及してる間に非正規雇用は拡大し、6人に1人の子供が貧困に叩き込まれ、沖縄の新基地の建設が進められ、世界で戦争が続けられている。こんな在り方を許せるかということだ！

●大学は「日常」を変える場ではないのか！

私たちは、こんな戦場のようないくつをどこまでも繰り返すために、日々真面目に学び、真面目に働こうとしているのだろうか？ この絶望といえる状況から展望を切り開くために大学という場所があったのではなかったのか？

しかしながら、私たちの大学は何も答ええない。「世界TOP100の大学になる。」越智学長はこのことばかり訴え、大学の生き残りのためにむしろ私たちをコマとして利用しようとしている。そればかりではなく、「平和を希求する精神」を掲げながら、自らの利益のためだけに、武器と原発を世界中に売りさばいている三菱重工を大学の経営協議会に入れ続けている。戦争反対の立場を示

学生・生徒の自殺者数の推移



広島大学学生自治会

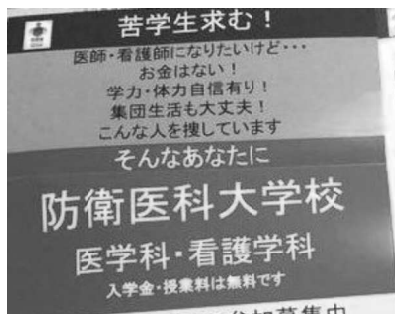
(委員長・森田寛隆)

E-mail: hirodai86@yahoo.co.jp

Blog: <http://hirodai86.blog.shinobi.jp/>

せという私たちの申し入れについても、受け取りさえ拒否した。この姿勢のどこに、戦争や貧困、社会問題を解決する場所としての「大学」があるのだろうか！？

平時と戦時の区別などない。この間のシリア空爆はフランスもイギリスも議決された翌日に開始。日本では三菱重工をはじめとして武器輸出が始まり、大学の軍事研究も大々的に始まった。「デュアルユース」「軍事と民事の境界は邪魔」といって防衛省主催の軍事研究に多数の大学が参加していく。まともに生きていけない日々につけ込んで「苦学生求む！」と言って自衛隊の募集がかけられている。そうやって、戦場のような日々から、実際の戦争に加担させられていく。戦争動員の実態が今の「日常」の中にある！そしてその戦争の理由はいつも「自衛」！こんなどうしようもない「日常」を「守る」ために戦争に加担しろということ！こんな欺瞞の中で、軍需産業などが「空爆1回1億」とも言われる暴利をむさぼっている一方で、多くの労働者が非正規に、無権利状態に突き落とされ続けている。資本家の利益は、文字通り多くの人々の「血と涙」で生み出されている。



●変える力は自分たち自身にある！

この戦場のような「日常」、そして戦争は仕方がないものと諦めなければならないのだろうか？

そこで考えてほしいことは、いったい誰がこの「日常」を支え、戦争を担わされていくのかということだ。「日常」も戦争も、これから社会に出ていく私たち自身が担わされることではないか！だから、私たち自身がこの社会を変える立場に立たない限り、授業はどこまでも社会を変革するものではなく支配の道具にしかならず、社会に出て行っても、自分の生存を守るためだけにあくせく働く日々を過さなければならない。現在の社会に、「日常」に期待ごすることなどない。だからこそ、私たち自身が社会を創っていく立場に立たなければならない。そもそも学生とは、未来を創っていく存在ではないか！

●立ち上がった世界の仲間とともに闘おう！

戦場のような「日常」に対し、これまで考えられなかったような数の人々が、世界中で、そしてこの日本でも立ち上がっている！

中国では当局の強圧的支配と軍事的突出に関わらず、熱帯海洋学院の学生たちが「学校の軍事制度化反対」で夜通しのデモ。労働者は年間60万件を超える規模で、賃金未払いや不当な労働環境に対し立ち上がっている。

インドでは三菱重工も関わる原発建設に反対で警官隊と衝突し死者を出すデモ。「子供の未来のためにも絶対阻止する」と闘い続けている。また、労働法制改悪反対で1億5000万人もの労働者がゼネストに立ち上がった。



韓国では16日に今年3回目となるゼネスト！11月に15万人が参加した民衆総決起大会に対して、参加者全員を逮捕すると警告されている中でのストライキ。民衆総決起では「戦場のような現実には痛み疲れた国民の叫びを暴力デモとは何ごとだ」と声明を出し「死ぬほど働いても人間らしく生きられない世の中は私たちの望む世界ではない、労働者民衆のための世界は私たちで作ろうということだ」とデモを打ち抜いた。

そしてこの日本でも9月安保国会決戦が空前の規模で闘われた。これまで「日本では運動は起きない」と言われてきた中で、国会前には12万人が集まり、全国では100万人が行動に立った。



●思いを踏みにじる連中を打倒しよう！

このような大きな運動も、一人一人のドラマから生まれている。「能力がない」「仕事が遅い」と「個人の問題」として蔑まれ、賃下げや首切りが正当化される「日常」があり、それに対する怒りを仲間と共有し、本当にこの「日常」を変えようという決起。安保法制は議会で決まるから仕方ないという諦めに対し、戦争をやらされるのは絶対に許せないという決起。こうした必死の思い。その一つ一つが今、議会ではもちろん職場や大学でまったく大事にされないどころか、踏みにじられている状況がある。しかし、このことを一人で嘆いているのではなく、学生自治会に加わって共に変えよう！世界の99%の、同じような「日常」に苦闘している人々が仲間だ。必死の思いを踏みにじる1%を打倒する、大学からのストライキを巻き起こそう！

ストライキに向けた学習・討論会

12月18日（金）16：30～

@学生プラザ1Fミーティングルームにて

「2015年の学生運動の総括と2016年の課題」というテーマを中心に、私たちが時代をいかにとらえ、何をなすべきか議論します。飛び入り等歓迎します。自治会と意見が異なると考えている人も歓迎です。展望を切り開きましょう！